

クリーンテック戦略月次レター（2021年4月の振り返り）

EVの世界的な浸透一段と

米中の気候変動対策への取り組み加速で、エネルギー移行関連投資も拡大へ

4月にはクリーンテック戦略関連で注目すべき動きが続きました。EV（電気自動車）の更なる浸透、気候変動対策への各国の取り組み表明、そして関連企業の好決算です。

なお、4月の市場は米国の良好なGDPおよび新型コロナワクチン普及に伴う経済正常化期待で上昇しましたが、クリーンテック戦略ポートフォリオは世界株式（MSCI ACWI）を上回りました。



世界的に電気自動車の普及が加速しており、欧州や中国では急速充電ステーションの拡大が進んでいます。

EVの普及加速

世界的にEV販売が伸びており、クリーンテック戦略ポートフォリオ・マネージャーのアマンダ・オトゥールによれば、中国と欧州で新車販売に占めるEVの割合はそれぞれ11%と16%に達しました。4月にはまた、独フォルクスワーゲン（VW）のEV「WV ID.4」が「ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー2021」を受賞し、自動車市場関係者や消費者にとってEVがますます魅力的になっていることが明らかになりました。同賞は、世界28カ国、93名のモータージャーナリストによって選考委員が構成されています。VWはEV関連投資を拡大しており、主要傘下ブランド「アウディ」や「ポルシェ」などを含めたグループ全体の世界販売に占めるEVの割合を2030年には50%にする計画を3月に発表しています。なお、同賞で僅

差の2位もホンダのEV「Honda e」でした。ホンダは4月、2040年までに世界で販売する新車すべてをEVか燃料電池車にするとの極めて意欲的な目標を発表し、ガソリンエンジン車からの撤退を示唆しています。

米中の気候変動対策への取り組みに注目

4月下旬に米国は気候変動サミットを主催し、パリ協定への新たなコミットメントの一環として、2030年までに温室効果ガスの排出量を2005年比で半分に削減すると発表しました（気候変動サミットに関してはクリーンテック戦略レター「ネットゼロシフト加速: 気候変動サミット受け、政府・企業で野心的取り組み浮上。再生可能エネルギーの導入がカギ」を参照）。サミットでは、米国と中国が気候危機への緊急対処に関して協力することをコミットしました。米中は貿易などで対立していますが、世界の二大排出国のこの対応は世界な政策協調に向けた大きな一歩となりました。このような背景もあり、ネットゼロ目標達成に向け企業や国がグリーン・エネルギー、ストレージ、エネルギー効率化サービスなどを追求するため、エネルギー移行への投資は底堅いとクリーンテック戦略のアマンダは考えています。

関連銘柄紹介

シュナイダー・エレクトリックとアメレスコ

「スマートエネルギー」分野では、シュナイダー・エレクトリックとアメレスコがパフォーマンスに貢献しました。シュナイダー・エレクトリックはフランスを本拠とし、エネルギー効率改善のためのエネ



ルギー・自動化ソリューションをデジタル方式で展開する多国籍企業です。同社はエネルギー管理と産業オートメーションの両分野が全ての地域で好調に推移し第1四半期の業績が好調だったことから、株価は堅調に推移しました。

アメレスコは米国企業で、政府、医療、公共、教育などの各セクターと協力し、様々な施設におけるエネルギーの利用と効率の改善に貢献しています。同社も、エネルギー効率プロジェクトの需要増により第1四半

期業績とガイダンスが良好で、株価も堅調でした。

LG化学とアプティブ

「低炭素輸送」分野関連では、韓国の総合化学メーカーのLG化学、英国の自動車テクノロジー企業のアプティブがともにポートフォリオにプラス寄与しました。LG化学は第1四半期業績が全事業部門で好調だったことを発表しており、売上高利益率の向上と、よりクリーンな化学製品へのシフトが進んでいます。なお4月中旬、LG化学はゼネラルモーターズ（GM）と共同で米テネシー州に2番目の車載用蓄電池工場を23億ドルを投じて建設することを発表しました。GMはEVラインナップの拡充を急いでおり、工場建設はその一環となります。

アプティブについては、4月には自動車部品メーカーの今年下期の業績が上振れするとの見方が広がったことから、株価は年初来の軟調傾向から幾分回復しました。

エヴォクア・ウォーター・テクノロジーズ

「効率的な資源利用」分野では、エヴォクア・ウォーター・テクノロジーズなどの水処理ソリューション企業が堅調でした。米バイデン政権下でさらに厳しくなる米国の水質および水の効率的利用に関する規制の見通しを受け、エヴォクアなど効率的な資源活用に貢献する企業の成長機会が注目されています。

関連リンク

[再生可能エネルギーに注目: 洋上風力発電に大きなポテンシャル、日本でも重視](#)

[日本、EVで巻き返しへ: 政府、自動車メーカーと連携しインフラ整備](#)

[脱炭素化へ政策支援加速: 日本を含む主要国、カーボンニュートラル達成目標掲げる](#)

[投資家が進化する経済に関して知っておくべきこと](#)

[フラムリントン株式運用戦略: 注目のテーマ株式](#)

[アクサIMのクリーンテック戦略について](#)

ディスクレーマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスお

および伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2020年12月末時点で約8,580億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、5,550億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-20970